

事をも有り又別ある者多く何卒別成者をもに公交
より諸君の如く言海守より其の毒太即狐の所為成べし
と申されしに法不其意あるに忍教退散變化退治
此法を修せしめ玉ひとる海守より是に何より難義成る所
況に小僧侶の祖師の教に任せ天下泰平國土安穩武運
長久息災延命を祈る此身無一然れども言命は少月
まかとしを願ふ一玉ふ義光公喜悅有ては法から地龍等
と取出し玉ふ是に我常又信しなる如の言像あり是を中
首に安置しなり護摩修行有しそ言海に即けり言海
彼の言像を守りなり歸して一所を法め四面に檀を飾り

中首に將軍地藏摩利支天を逆に批り立華ふ常此花
乳牙に山槍柘焼香に毒蛇の骨供具に羊の飯を盛り
灯火に宮守の油開伽よ白蛇の氷を垂れ飯食日々に
替て調伏の次方おる所なりしこともなり蛇に二七日
子の刻より内親成就と申しこれ義光公喜悅不斜
重て申被申さしと有り氣言海申上るに今夜申被向る時
例の術を顯しそも其の方紫の雲根引おるに東より前の
如く奇怪を振舞とも少くありみ玉ふ座を法めと申上る